



まちの駅ニュース

人と人の出会いと交流をサポートする
まちの情報発信基地

1.「第 20 回まちの駅全国大会 in ふくおか」を開催

「第 20 回まちの駅全国大会」は 9 月 29 日（金）～30 日（土）に福岡市博多シティで開催、全国から 189 名の参加者を得て、自由闊達な議論と交歓の大会となりました。オール九州沖縄メンバーで実行委員会を組んで、企画・準備・運営に当たりましたが、九州沖縄 8 県から参加を得たことは、今後につながる一つの成果でした。

初日は式典とフォーラム。その中から、まちの駅にも参考になりそうな話題や意見を一部紹介します。

基調講演「JR 九州と活力ある九州づくり」 石原進氏（JR 九州相談役）

- 九州の人口が減少する中、九州新幹線開通及び様々な経営改善、徹底したサービス改善を試みることで、JR 九州の列車輸送人員は増加傾向にある。
- バスやマイカーとの競争では、列車本数の増加、新駅の設定、スピードアップの他、ビルやホテル、流通、飲食など関連事業の多角化で収益を確保。
- サービス改善の歴史を振り返ると、「心をどう伝えるか」に行きつく。車両や駅舎のデザイン改良が、イメージの刷新や顧客の満足度向上につながった。
- 移動のためだけでなく、乗りたい楽しい列車づくりとして「ななつ星 in 九州」や「SWEET TRAIN」等を誕生させ、人気を呼んでいる。
- 事故の芽を摘むための「ヒヤリハット」情報は、責任を問うと出てこない。褒めることで情報が出てくる。
- IT で現場からの気づきや意見を共有化し、本部が 2 週間以内に回答することで、社員の意識が高まっていく。



第一分科会「まちの駅の運営研究（行政と民間の関わり）」…まちの駅の原点を大切にすべき（トイレ休憩と案内）、楽しむ気持ちを伝えること、目的の共有化、繋ぐ人の存在、行政主導が強いと各駅が受け身になる、等々。

第二分科会「地域でヒカリ輝くまちの駅（女子力アップ）」…五感に訴えるおもてなしの工夫、女子会に男子駅長の奥さんも参加して内助の功を議論、様々な業態があるまちの駅同士の多様な連携、持ち回り式の駅長会議、等々。

第三分科会「国際化に対応したまちの駅をめざして」…2020 年に訪日観光客は 4000 万人に、言葉の壁は訪日外国人も困っている、まちの駅を訪日外国人との交流の場にする時代、外国人の視点で考える（体験や会話を好む）、等々。

また、交流懇親会の場合では、来年の「まちの駅九州沖縄会議」を鹿児島県南薩ブロックで 9 月に開催することが発表されました。NHK 大河ドラマも「西郷（せご）どん」ですからね。

翌 30 日のエクスカッションでは、現場を見ながら感じたり学んだり。福岡コースは、甘木・朝倉地区の「まちの駅」を探访。朝倉市の三連水車など、本年 7 月の九州北部豪雨の被災現場を視察しました。24 時間雨量 1000ml という空前の豪雨災害の凄まじさに驚かされました。

南薩&桜島・霧島コースは 1 泊 2 日。1 日目は鹿児島まちの駅連絡協議会の事務局訪問と砂風呂をはじめ南薩の各種地域資源を体験。2 日目は、噴煙が立ち上る桜島の見学とまちの駅訪問、その後、霧島のまちの駅を訪問して鹿児島空港で解散しました。

北薩コースは、出水市の武家屋敷群の散策、ツル博物館や戦争遺跡の見学。今年で 11 回目を迎える「着物で出水武家屋敷を歩こう会」は、2016 年に「第 7 回地域再生大賞優秀賞」（共同通信社主催）を受賞しています。

沖縄コースは自由散策後、沖縄県青年会館で沖縄日本復帰 45 周年記念「交流と連携フォーラム」を開催しました。



北薩コース



南薩&桜島・霧島コース



甘木朝倉コース

2. まちの駅レポート…行儀見習体験記

9月22日から10月1日まで、事務局に跡見学園女子大学2年の平井加奈子さんがインターンに来てくれました。「第20回まちの駅全国大会 in ふくおか」の準備や運営補助のほか、本庄まちの駅サイクリングなどに参加しましたので、本人作成の体験レポートを掲載します。



①本庄まちの駅サイクリング

9月24日（日）、江東自転車エコライフの会の方々と、埼玉県本庄市のまちの駅めぐりをしました。まずJR本庄駅の中にあるまちの駅の「本庄駅の駅」に寄りました。本庄の観光推奨土産品などの多くのものを取り扱っていて、とてもお土産を買いやすく観光に来た時にまちの色々なことを聞きやすい駅だと感じました。

それから、「レンタサイクルの駅」で自転車をお借りして、本庄市内と、隣接している群馬県伊勢崎市をめぐりました。まず本庄駅の駅でお薦めしていただいた「不二ドライブイン」に行き昼食を頂きました。そして自転車を走らせ群馬県伊勢崎市の世界遺産「田島弥平旧宅」に向かい、元気なガイドさんに案内していただいた後、利根川自転車道を坂東大橋まで漕ぎました。そこから本庄市内に入り「ひょうたんアートの駅」と「御大師様が立ち寄られる駅」に立ち寄りました。近くの歴史民俗資料館では、本庄市のゆるキャラである「はにぼん」のモチーフにもなった「笑う埴輪」と「世界最古の自転車『陸船車』」を見ることができましたし、本庄市の歴史も知ることができました。最後に国登録有形文化財の旧本庄商業銀行煉瓦倉庫（現交流施設）に立ち寄りました。まちの駅の皆さんがとても優しく声をかけてくださり、今回の本庄まちの駅サイクリングをサポートしてくださいました。



本庄駅の駅



レンタサイクルの駅



ひょうたんアートの駅

②熊本県菊池市のNPO法人きくち櫻会を訪問

10月1日（日）、熊本県菊池市に行きました。NPO法人きくち櫻会の方や菊池市役所の方5人とまちの駅について意見交換をしました。会場の「よっこい処」は商店街の空き店舗を利用したコミュニティースペースで、まちの駅にすることを検討しています。

「まちの駅とはなんなのか」、「地域にまちの駅を増やしていけるか」、「他の地域で行っている地域活性化を菊池市でもできるか」などさまざまなことを意見交換しました。地元の課題として「イベントを開催すると人は来てくれるが一過性になる」ことや「開催にあたっての金銭面での厳しさ」があります。またNPOのメンバーがきくち櫻会とは別に本業があることの限界も出されました。そこで「まちの駅」の中でも成功しているところの良さを、これから作る菊池のまちの駅にどう生かしていくか話し合いました。

地域で繋がるという話題では、荒川区まちの駅で企画中の「シャルソン」（ソーシャル×ご当地マラソン）という、オリジナルのTシャツを着てまちを走る（巡る）ことによって人と人がつながることができるイベント、着物を着てまちを歩きそのまま着た着物を持ち帰れる企画（鹿児島まちの駅北薩ブロック）、「xChange」というだれでも参加、開催できるフリースタイルのファッションアイテムの物々交換、という事例についても話しました。



よっこい処で意見交換



事前に、復旧工事中の熊本城にも立ち寄りしました

3. 越後長岡まちの駅“シールラリーの旅 2017”

新潟県長岡市、越後長岡まちの駅は 60 駅のまちの駅ネットワークです。今年も 7 月 24 日～9 月 30 日まで、恒例の「シールラリーの旅 2017」を開催しました。訪問者に対してまちの駅の案内人がシールを貼ることで、コミュニケーションをとりながら回ってもらい、名産品などが当たるイベントです。また、同時開催（8 月 31 日まで）の夏休み子ども向け特別企画「お家の人と巡ってまちの駅長カードをゲットしよう～2017～」では、駅長に地域やまちの駅のことをインタビューしてカードに書き記すことで夏休みの自由研究になり、5 駅以上回ったら賞状と文具がプレゼントされます。開催期間中にいくつかのまちの駅を訪ねました。



①越後古民具の駅(井口製材所)

越路地区の「越後古民具の駅」には、古民家から出てくる「越後古材」や古道具や家具、骨董などの古物全般が揃っており、昔懐かしタイムスリップを味わえます。12 ある倉庫を見て回ると、いろいろな掘り出し物との遭遇があり、時の経つのを忘れてしまいました。

②メディアサポート まちの駅(原田通機・情報サービス)

中之島地区の「メディアサポート まちの駅」は、情報通信設備会社の事務所の一部を開放してまちの駅に。長岡まちの駅の現会長でもある原田敏さんによれば、長岡市の隠れた名産品がレンコンで、生産量が限られているため出回らないのだそうです。原田会長から、大口レンコンがシールラリーの景品として提供されました。

③日本茶の駅(広野茶店)

栃尾地区の「日本茶の駅」では、店内の茶飲みスペースで広野駅長と懇談。栃尾はかつて繊維業で栄えた時代があり、東京から大勢の業者が札束を持って訪れ、花街もあったとか。今はその面影はなくなっていますが、雁木のある街並みが雪国ならではの風情を醸しております。シールラリーには、国産の屋久島紅茶を提供しています。

④ぎんなんアイスクリームの駅(山岸モーターズ)

小国地区の「ぎんなんアイスクリームの駅」では、ぎんなんアイスクリームを食べながら、山岸駅長と懇談。元から銀杏の産地だったわけではなく、まちの駅を始めるために小国町の特産品を考えて、ぎんなんアイスクリームを作り始めたとのこと。今では、ぎんなん入りの味噌や乾麺も販売しています。シールラリーには、ぎんなんめんを提供。



4. まちの駅で見つけた“珍味”の紹介

福岡県筑前町のファーマーズマーケットみなみの里は「安らぎの駅」というまちの駅になっています。直売所では地元の農産物や加工品、農家レストランではかまど炊きごはんの食事を提供して、連日にぎわっています。そこで見つけたのが、「しっぽのから揚げ」。何のしっぽだか分かりますか。食べた感想を言うと、かなり脂っこくて、付け根の肉以外は骨があって身は少ない。ビールのおつまみには合うかもしれません。値段は大が 300 円、中が 200 円で、写真は大きくサイズです。…答えは豚のしっぽなのでした。



5. “偉人を偲んでまちめぐり”発行(まちの駅ネットワーク焼津)

静岡県焼津市は、東京と名古屋のほぼ中間、静岡市の西隣りにあります。3 つの漁港を持ち水産業と共に生きてきたまちで、カツオ、マグロの水揚げは日本一を誇ります。

現在、まちの駅ネットワーク焼津は 31 駅で活動していますが、昨年度、「やいづの昔に出会う駅」(焼津市歴史民俗資料館)との共同作業で、『偉人を偲んでまちめぐり』を発行しました。焼津市の今日の礎を築いた 10 人の偉人(徳川家康、焼津の水産翁、徳川頼信、井伊直孝、下村声峰、小泉八雲、持塚弥吉、長谷川法永、池谷誠一郎、片岡惣八郎)の関わりや業績を訪ねる歴史散策コースが紹介されています。本冊子を片手に、遠き古へに思いを馳せながら、各偉人の焼津との関わりを辿るタイムトラベルをお楽しみください。



6. 今後のまちの駅全国大会の予定

①第 21 回大会は、会津まちの駅(福島県)で開催

平成 30 年度の「第 21 回まちの駅全国大会」は、福島県会津地域で開催する予定です。平成 18 年にも開催しており、今度が 2 度目の開催となります。時期は 11 月頃で調整中ですので、決まり次第ご案内いたします。

検討テーマとしては、第 1 にインバウンドがあげられます。訪日外国人観光客が急増する中、東京から西へのゴールデンルートは飽和状態になりつつあり、これからは東北ルートへの誘導が重要だと言われています。

また、歴史的な節目という点では、来年は明治維新 150 年です。明治時代は戊辰戦争からスタートしています。NHK 大河ドラマが「西郷どん」でもあります。あらためて、幕末・明治に学ぶことが多々ありそうです。

さらに、東北の応援という点では、大熊町で被災した方の多くは今も会津で避難暮らしをしています。まちの駅でも平成 23 年～25 年に“心のくつした便”を実施しましたが、その後の状況が気になりますね。

②第 22 回大会は、まちの駅ネットワーク焼津(静岡県)で開催

平成 31 年度の「第 22 回まちの駅全国大会」は、静岡県焼津市で開催する予定です。焼津と言えば、マグロやカツオの海産物に、絶景の富士山はシャッターポイントが点在。平成 28 年にはまちの駅発足 10 周年を記念して「偉人を偲んでまちめぐり」なる冊子を発刊されました。必見のディスカバリーパーク焼津(ほしの駅)は、宇宙・海・自然をテーマにした科学館です。“ちょっくら寄らざあ、やいづまちの駅”。今から焼津の大会が楽しみです。

新規まちの駅のご紹介 (平成 29 年 4 月から 10 月までの加盟駅)

都道府県	市町村	まちの駅名
宮城県	東松島市	まちの駅 Harappa(はらっぱ)
福島県	会津若松市	会津まちの駅(2 駅) ・まちの駅 ロータス村
	只見町	・えごまの里 まちの駅只見
	伊達市	ネットワーク伊達(1 駅) ・一般社団法人 まちづくり伊達
新潟県	長岡市	越後ながおかまちの駅(1 駅) ・まちの駅 越路 我龍
	三条市	・はたけの駅
岐阜県	笠松町	笠松町まちの駅(2 駅) ・子育ての駅 ・優しい空間とごはんの駅
福井県	勝山市	まちの駅ネットワーク勝山(3 駅) ・ワンコイン 滝波近くの駅 ・贈りものと名産品の駅 ・しだれ桜と傘天井の駅
三重県	尾鷲市	まちの駅ネットワーク尾鷲(2 駅) ・薫るあぶりの駅 ・ぽんぽこしいたけの駅
広島県	廿日市市	まちの駅ネットワークはつかいち(14 駅) ・うどん・ラーメンの駅 ・炎の駅 ・給油、洗車の駅 ・アートギャラリーミヤウチ ・老若男女集える駅 ・超回復駅！ 酸素カプセル・炭酸足湯サロン ・馬のいる駅 ・川釣りの駅 ・アンティーク時計の駅 ・ウッドワン美術館

都道府県	市町村	まちの駅名
広島県	廿日市市	・釣って食べる駅 ・街の電気屋さんの駅 ・水と緑のカフェ 癒しの駅 ・4 万 5 千年風呂の駅
福岡県	豊前市	豊前まちの駅ネットワーク協議会(2 駅) ・仲間の駅 やまびこ ・Naight Station
沖縄県	那覇市	沖縄まちの駅連絡協議会(1 駅) ・まちの駅 結(YUI)

編集後記

多くのまちの駅ネットワークで取り組んでいる「スタンプリヤー」ですが、一方で「無言で入ってきて、さっとスタンプを押すと無言で去っていく人が多い」という理由で止めてしまった地域もあります。越後長岡まちの駅では、駅長がシールを貼るという手法で、無言の来訪者をつくらない工夫をしていました。

10 年も経つとまちの駅発足時の熱意も薄れてくるし、メンバーも年をとってしまい、活動が鈍ってくるという意見も聞かれました。若い新規メンバーが入って来なければ、高齢化が進み、熱意の再生産もできません。

今どきの若者は組織運営を敬遠しがちで、プロジェクト型の社会参画を志向しているという指摘もあります。“固い絆”よりも“ゆるい関係性”を好み、“理屈”よりも“感性”を優先することを理解しながら、若者とも共有・協働したまちの駅“活用”を模索・実現していきたいと思います。(は)

全国まちの駅連絡協議会事務局

(NPO 法人地域交流センター内)

東京都千代田区東神田 1-7-10 KIビル 3F

TEL03-5823-4190/FAX03-5823-4191

